

G空間×ICT北陸まちづくりトライアルコンクールの各部門のイメージ

○募集部門Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは、総務省が平成25年6月28日に公表した「G空間×ICT推進会議」報告書に記載の「共創型元気経済社会」、「共助型安心安全社会」、「共生型地域活力社会」を各部門としています。

<p>コンクール募集部門</p>	<p>「G空間×ICT推進会議」報告書 抜粋 ()は報告書の頁</p>
<p>部門Ⅰ：「元気な経済／便利な暮らし賞」部門</p>	<p>「共創型元気経済社会」(G空間×ICTで、「元気な経済、便利な暮らし」を実現) (イメージ) (P19)</p> <p>○図表2-2 「共創型元気経済社会」(G空間×ICTで、「元気な経済、便利な暮らし」を実現(イメージ))</p> <p>○「1分の1」の投影型高精細デパート3D地図により、自宅にいながら、バーチャル・ショッピング。 ○あらゆるモノが位置情報を測位・発信し、屋内でも屋外でも、どこに何があるか常時把握。オンラインショッピングで購入した商品の配送時、交通状況をもリアルタイムで計算し、注文した商品の到着時間を詳細に予測。</p> <div style="display: flex; flex-wrap: wrap;"> <div style="width: 50%;"> <p>小売・流通 (020)</p> <ul style="list-style-type: none"> CRMの高度化 <ul style="list-style-type: none"> 店舗情報の即時提供 デジタルクーポン チェックアウトポイント 顧客情報の活用によるマーケティング GISマーケティング <ul style="list-style-type: none"> 商圏・市場分析の可視化 売上予測、販促促進支援 店舗配置計画、広告計画 <p>顧客の位置・行動情報の共有による連携</p> </div> <div style="width: 50%;"> <p>物流業、運輸業</p> <ul style="list-style-type: none"> 自動倉庫/リ・シヤン <ul style="list-style-type: none"> 荷物の入出荷状況、庫内・在庫情報の見える化 仕分け・パレタイズの自動化 在庫管理・分析 輸送の効率化 <ul style="list-style-type: none"> プロ・ナビ情報活用による迂回や配送経路の最適化 無人走行の実用化 輸送状況の監視 (ドレ・リビデテ)の普及 <ul style="list-style-type: none"> タイムスランパ付きのドレング 産地や輸送状況の保証 <p>荷物位置と車両位置情報の共有による連携</p> </div> <div style="width: 50%;"> <p>交通：次世代ITS</p> <ul style="list-style-type: none"> 危険検知・自動制御 <ul style="list-style-type: none"> 運転者への警告 介入による危険回避 EV充電ステーションの検索・T・Tルート案内 プロ・ナビ情報 <ul style="list-style-type: none"> ドヤリハット検知(急ブレーキ減速地点等) 運転者への周知 適切な道路改修計画への利用 レーン別混雑情報 <p>車、人などの位置情報の共有による連携</p> </div> <div style="width: 50%;"> <p>M2M(機械装備、産業ロボット)</p> <ul style="list-style-type: none"> 自動搬上(建設) 無人機による自動建設 <ul style="list-style-type: none"> 建機の自動走行 作業進捗状況の管理 ヘリ・ドレ映写 エリア監視 <ul style="list-style-type: none"> IMVによる監視 盗難検知 <p>不審者、建機等の位置情報の共有による連携</p> </div> </div>
<p>部門Ⅱ：「安心・安全な社会賞」部門</p>	<p>「共助型安心安全社会」(G空間×ICTで、「安心安全な社会」を実現) (イメージ) (P19)</p> <p>○図表2-3 「共助型安心安全社会」(G空間×ICTで、「安心安全な社会」を実現) (イメージ))</p> <p>○ 社会インフラ管理や防災にG空間情報を活用することにより、フル・レジリエントな安心安全な社会が実現。 ○ 行政と住民がG空間情報を介してつながり、住民が役所に出向くことなく、その時、その場所に応じた行政サービスが提供。</p> <div style="display: flex; flex-wrap: wrap;"> <div style="width: 50%;"> <p>防災</p> <ul style="list-style-type: none"> 防災システムの普及 <ul style="list-style-type: none"> 3D地図・様々なG空間情報を活用した遠隔監視・シミュレーションシステム 被害検知や表層構造のリアルタイム観測を基に、早期の被害検知・迅速な復旧・復興へ。 空域情報 <ul style="list-style-type: none"> 市民、施設等の位置・被害情報の共有による連携 市民、資産(個人・公共)の位置情報の共有による連携 </div> <div style="width: 50%;"> <p>社会インフラ整備</p> <ul style="list-style-type: none"> G空間によるインフラ管理 <ul style="list-style-type: none"> M2Mソリューションやドッグアースとの連携を通じて、インフラインテグレーションによるインフラ管理。 各種点検 <ul style="list-style-type: none"> 社会インフラの位置・状況情報の共有による連携 </div> <div style="width: 100%; text-align: center;"> <p>行政サービスの高度化</p> <p>行政情報の電子化・相互連携</p> <ul style="list-style-type: none"> 従来の紙が中心で完全に電子化されておらず、紙と電子の両方で管理。 電子化された行政情報は、共通の標準や仕様に準拠して連携。 <p>オープンソース時代の行政サービス</p> <ul style="list-style-type: none"> それぞれの住民が、それぞれの状況・場所に応じた、サービスを享受。 </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>現状課題</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>現状課題</p> </div> </div> </div>

部門Ⅲ：「活力ある地域賞」部門

「共生型地域活力社会」(G空間×ICTで、「活力ある地域社会」を実現)(イメージ①②) (P20)

○図表2-4 「共生型地域活力社会」(G空間×ICTで、「活力ある地域」を実現)(イメージ①)

- cm単位の段差も把握した3D屋内外地図により、車いすの方や高齢者を安全に目的地まで自動誘導。
- 高齢者や子供たちをシームレスに見守り、安全な地域コミュニティを実現。

買い物弱者

- 移動販売・買物代行
- コミュニティバス運営
- 寄居地区の把握
- 巡回経路の最適化

高齢者等の位置情報の共有による連携

バリアフリー、道案内

- ナビシステム
- 移動能力に応じた最適経路の案内
- 地下街・施設内を含むシームレスな測位と地図

バリアフリー情報、高齢者位置情報の共有

見守り

- シームレスな常時見守り
- 通常経路の逸脱や経路からの警告
- 主体情報のセンシング

高齢者等の位置情報の共有による連携

医療、介護

- パンパニック防止
- 発生情報の集約と分析
- GISによる分析結果の可視化
- 加齢の集積・研究機関との連携

訪問介護・医療

高齢者等の位置情報の共有による連携

○図表2-5 「共生型地域活力社会」(G空間×ICTで、「活力ある地域」を実現)(イメージ②)

- 圃場のm単位の土壌状況や作物生育状況、周辺の気候情報等がマッシュアップされた3D高精度空間地図を用いて、AI農耕機が、m単位で耕作の強度を変化させる等、超高性能農業を実現。
- 海底面の高精度測位を常時行い、平時は資源探査、災害時は津波の到着場所・時間を瞬時に予測。

農業・林業

- 農地・森林情報、作業車や車両等の位置情報の共有による連携
- 森林
 - 空中写真やLiDARデータからの植物判別
 - 衛星測位、GPSを用いた高精度位置管理
 - 森林資源の精緻な計測、林業の自動化
- 農業
 - 圃場の環境監視(空撮監視、稼働監視等)
 - 気象、物価や市場などの社会サービスの活用
 - ロボットを活用した生産性・品質の向上
 - 作業管理の高度化
- 作業員の負担軽減
 - 圃場区画に合わせた移動作業の自動化
 - センシングデータの活用
 - 作業の自動化(作業口の部分自動化等)が可視化
 - 水田センサー設置、走行、姿勢監視情報

水産業・海洋

- 漁業
 - 無線による漁船位置情報の収集
 - 漁船向けアラート配信(気象、気象等)
 - 水産資源管理の実現、安全性・効率性の向上
- 海洋・港湾情報、作業車や船舶等の位置情報の共有による連携
- 漁業
 - 船舶保安情報連携の可視化
 - 水文気象変化システムの活用
 - 自動着岸誘導システムの構築
- 近海漁業
 - 船々の船や漁具の測位、情報共有
 - 外洋監視情報(気象/海象)の活用
 - 衝突防止機能、漁獲量回収のシステム
- 海洋地理空間の可視化
 - 海洋資源の管理、数値
 - 海洋環境のモニタリング、保全
 - 環境保護団体
 - 研究機関、観光事業者などの情報共有システム
- 外洋
 - 船口のハイタルドセンシング
 - 外洋監視情報(気象/海象)の活用
 - 船内データを活用した船舶クラウドの実現

(総務省報道発表)

平成 25 年 6 月 28 日 「G 空間×ICT 推進会議」 報告書の公表

http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01tsushin01_02000105.html

○更に、次ページも参考に、北陸3県において、G空間情報(地理空間情報)やICT(情報通信技術)を活用した街づくりのユニークなアイデアの応募をお待ちしています。

G空間情報！

「G空間情報(地理空間情報)」とは、位置や場所に関連づけられている情報のこと。例えば、人車がどこにいるか、災害や事故がどこで起こっているかという情報のこと。これまではG空間情報は大量に生成されているが、多くは十分に利用できていなかった。

例えば、地図情報、自治体が保有する地図関連情報(例:道路工事情報、公衆トイレの位置などの情報)、豪雨等の気象情報など様々な情報がある。

ICTの動向！

G空間情報をだれもがどこでも使うには、ICT(情報通信技術)の活用が不可欠である。G空間情報の取得や伝達等に関係の深いセンサー及びスマートフォン、G空間情報の管理や分析に関係の深いクラウド・サービス及びビッグデータ技術等のICTの果たす役割が重要である。

例えば、身近なICTには、スマートフォンの他にカーナビ、ドライブレコーダー、GPSなどがある。



G空間活用でカーナビの高度化が期待できます。



北陸のまちづくりは
君たちの手で！



スマートフォン普及で世界の情報が集まりGPS機能によりビッグデータへの応用が期待できます。



G空間活用で効率的な土地利用が期待できます。



G空間活用で防災の更なる強化が期待できます。



貴重な文化財をG空間活用による保護や観光資源に！



駅などをG空間活用による新しい交流拠点に！



豊かな自然をG空間活用による保全や資源開発に！